

「賀川豊彦のお宝発見」その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (40)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第40回 「神戸市教育委員就任」

「神戸市教育委員の顔ぶれ」

1956 (昭和31) 年9月24日「神戸新聞」



賀川 豊彦氏 68歳



神戸市出身、
神戸神学校、
明治学院神学
科卒、アメリ
カのプリンス

トシ六で哲学を学び、帰国後、
社会、宗教運動に投じ、貧民救済
などに努めている。戦後国際平和
協会を創立、全国農民組合会長、
同志社大学教授もつとめた。昭和
三十年十月社会党顧問に就任、現
在日本生活協同組合連合会会長。
小説「死線を越えて」「一粒の麦」

などの著書がある。住所東京世田
谷区上北沢町二ノ六〇三、

手塚 敏雄氏 67歳



栃木県出身、
東大法学部卒
戦後川崎造船
所入社、昭和
二十五年川重

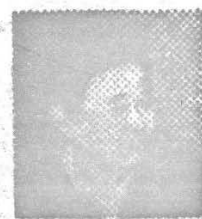
社長になり現在にいたる。このほ
か川崎航空、川崎不動産各社長、
神戸新聞会館、神戸放送各取締役
兵庫県経営者協会会長を兼任して
いる。住所神戸須磨区須磨本町四
三。

瀬戸 文雄氏 62歳



群馬県出身、
七高、東大農
学部卒業後、
金沢医専講師
教授、金沢医

大付属専教授を経て、昭和十三
年一月神戸女子専校長になり現
在に至る。兵庫県医師会名譽
会長、真医会理事、神戸審議会委員
同格理事、同委員。住所神戸東灘区
本山町中野四五〇
小泉ハツ子氏 65歳
福岡県出身、奈良女子高師卒神戸市



教育委員、神
戸生活協同組
合家業会会長
神戸婦人同
情会理事、キ

リスト教婦人矯風会神戸支部長、
神戸市婦人団体連絡協議会会長を
歴任現在同協議会顧問。住所神戸
兵庫区山田町大池。

大島 堅造氏 69歳

明治四十二年東京高師卒、住友銀
行に入社、取締役監事を歴任、二
十二年五月退社、廿九年四月甲南
大経済学部教授となり現在に至る

賀川氏ら一流顔ぶれ

神戸市教育委員会 やっと内定

神戸市は十月一日から発足する新教育委員に賀川豊彦（日本生活協同組合連合会長）手塚敏雄（川崎重工社長）瀬戸文雄（神戸女子薬科大学長）小泉ハツセ（神戸市婦人団体連絡協議会顧問）大島堅造（甲南大教授）の五氏を内定、二十四日午後市会に内示、承認を求めた。

新教育委員の人選については自薦、他薦の候補が乱れ飛び、さまざまの下馬評でにぎわったが、神戸市当局は原口市長、石原、宮崎両助役、有岡総務局長の四人だけで極秘に選考を進めていた。内定した顔触れを見ると財界、文化人、婦人層など神戸一流の顔触れをそろえている。

賀川 豊彦氏 68 歳

神戸市出身、神戸神学校、明治学院神学科卒、アメリカのプリンストン大学で哲学を学び、帰国後、社会、宗教運動に投じ、貧民救済などに努めている。戦後国際平和協会を創立、全国農民組合会長、同志社大学教授もつとめた。昭和三十年十月社会党顧問に就任、現在日本生活協同組合連合会会長。小説「死線を越えて」「一粒の麦」などの著書がある。住所東京世田谷区上北沢町二ノ六〇三。

手塚 敏雄氏 67 歳

栃木県出身、東大法学部卒業後川崎造船所入社、昭和二十五年川重社長になり現在にいたる。このほか川崎航空、川崎不動産各社長、神戸新聞会館、神戸放送各取締役、兵庫県経営者協会会長を兼任している。住所神戸須磨区須磨本町四三。

瀬戸 文雄氏 62 歳

群馬県出身、東大薬学部卒業後、金沢医専講師教授、金沢医大付属薬専教授を経て、昭和十三年一月神戸女子薬専校長になり現在に至る。兵庫県薬剤師協会名誉会長、県医療機器整備審議会委員同結核予防委員。住所神戸東灘区本山町中野四五〇。

小泉 ハツセ氏 65 歳

福岡県出身、奈良女高師卒神戸市教育委員、神戸生活協同組合家庭会会長、神戸婦人同情会理事、キリスト教婦人矯風会神戸支部長、神戸市婦人団体連絡協議会会長を歴任現在同協議会顧問。住所神戸兵庫区山田町大池。

大島 堅造氏 69 歳

明治四十二年東京高商卒、住友銀行に入社、取締役監事を歴任、二十二年五月退社、廿九年四月甲南大経済学部教授となり現在に至る。

出席を約す賀川さん

初顔合せの新教委 抱負語る

一日午前十一時から市長室で開かれた市教育委員会の初会合で、瀬戸、大島、手塚、賀川、小泉の五新委員が初顔合せをした。原口市長から各委員に辞令を交付、簡単な任命式をしたのち委員長に瀬戸文雄氏、委員長職務代行者大島堅造氏を互選、木戸教育長を再任した。

任期については各委員がそれぞれ最低の一年を主張したためまとまらなかった。数日中に決定するが、市長の腹案では瀬戸、

大島両氏四年、手塚氏三年、賀川氏二年、小泉氏一年である。なお月一回の定例委員会は第一月曜日に開かれる。このあと一

行は川池小学校講堂で開かれ、市立校園長会議に出席、集つて百七十八人の校園長にそれぞれ就任あいさつをした。
瀬戸委員長の話 私は過去三

初顔合せの新教委員＝左から手塚、大島両委員、原口市長、瀬戸委員長、賀川、

原口市長、瀬戸委員長、賀川、小泉両委員

初顔合せの新教委員②のから手塚、大島両委員



七年間を専門学校、大学の教壇上で送ったが、小、中学校の教育については全然未経験だ。今後各委員と相談し一日も早く市教育の根本方針を見極めたい。そのためにも直接師弟の教育にたずさわっている先生方の意見は尊重したい。

賀川委員の話 東京に住んでいるので不便だが、月一回の委員会には必ず出席したい。私の念願は生活に直接して職業教育を普及することだが、委員になったのを機会に、まず神戸でモデル・システムをやりたい。

小泉委員の話 公選委員時代の経験を生かし、新しい観点から市の教育行政を再検討したい。婦人代表として主婦の声をよく聞き、教育行政面に生かしたい。

手塚委員の話 賀川さんの職業教育には大賛成で、生活に結びついた技術教育にとくに力を入れた。また教育の自主性につとめ、政党やボスに左右されないようにしたい。

大島委員の話 神戸は国際都市

だから大学教授と、海外生活から得た国際経済知識を教育行政面に生かしたい。昨年四月から大学教授になったが教育行政についてはズブの素人で六いに勉強したい。

出席を約す賀川さん

初顔合せの新教委 抱負語る

一日午前十一時から市長室で開かれた市教育委員会の初会合で、瀬戸、大島、手塚、賀川、小泉の五新委員が初顔合わせをした。原口市長から各委員に辞令を交付、簡単な任命式をしたのち委員長に瀬戸文雄氏、委員長職務代行者大島堅造氏を互選、木戸教育長を再任した。

任期については各委員がそれぞれ最低の一年を主張したためまとまらなかった。数日中に決定するが、市長の腹案では瀬戸、大島両氏四年、手塚氏三年、賀川氏二年、小泉氏一年である。なお月一回の定例委員会は第一月曜日に開かれる。このあと一行は川池小学校講堂で開かれた市立校園長会議に出席、集まった百七十八人の校園長にそれぞれ就任あいさつをした。

瀬戸委員長の話 私は過去三七年間を専門学校、大学の教壇上で送ったが、小、中学校の教育については全然未経験だ。今後各委員と相談し一日も早く市教育の根本方針を見極めたい。そのためにも直接師弟の教育にたずさわっている先生方の意見は尊重したい。

賀川委員の話 東京に住んでいるので不便だが、月一回の委員会には必ず出席したい。私の念願は生活に直接して職業教育を普及することだが、委員になったのを機会に、まず神戸でモデル・システムをやりたい。

小泉委員の話 公選委員時代の経験を生かし、新しい観点から市の教育行政を再検討したい。婦人代表として主婦の声をよく聞き、教育行政面に生かしたい。

手塚委員の話 賀川さんの職業教育には大賛成で、生活に結びついた技術教育にとくに力をいれたい。また教育の自主性につとめ、政党やボスに左右されないようにしたい。

大島委員の話 神戸は国際都市だから大学教授と、海外生活から得た国際経済知識を教育行政面に生かしたい。昨年四月から大学教授になったが教育行政についてはズブの素人で大いに勉強したい。

賀川豊彦氏

○「無地の襦袢上下に同じ無地の黒ネクタイ、黒ぶちメガネと黒グツ、なにからなまでに全部黒づくめ。こんなところに宗教家としての賀川さんのお

新しい顔

教育委員

③

いがチョッピリ感じられる。五人の委員のなかでは大島さんに次ぐ年長者だが、その行動力と気概は青年のように若々しく、自分でも「四十七年前、灘合区新川地区ではじめて貧民救済を

叫んでから、私の信念は少しも「手工」と「技術」を教える変っていない。私はいつも同じという。職業教育の普及という

恐ろしく活動的な仙人

目標に向って同じ道を歩いてきた」という。「日本のガンジー」といわれるが、初印象は「恐ろしく活動的な仙人」だ。



○「教育委員就任の第一声は「私は神戸の貧乏人のためにやってきました」。「食いはぐれない教育、失業の心配がない完全雇用の教育」これが賀川さんの口癖。児童には「生活の方法」を、青少年には「経営している手塚委員と大いに

職業教育の普及ねらう

意気投合していた。この二人の新委員で神戸の教育は大きく転換しそうだ。

○「東京に住み、生活の大半を「本書き」（創作のこと）と数多くの役職、名譽職に追いつかれており、日糧は半年先までギッシリつまっているという。多忙なことで有名な賀川さんを引張ったのは原口市長のクリンヒット。

◇神戸市出身、明治四十年明治学院神学予科修了、大正五年米国プリンストン大学神学科学博士、カナダ・バインヒル大学神学博士、米国クエウカ大学文学博士、現在社会党顧問、日本生活協同組合連合会長「死線を越えて」「一粒の麦」などの著書がある。六十八歳。

新しい顔 教育委員 =③=

賀川豊彦氏・・・恐ろしく活動的な仙人

- ☆ 黒無地の背広上下に同じ無地の黒ネクタイ、黒ぶちメガネと黒グツ、なにからなにまで全部黒づくめ。こんなところに宗教家としての賀川さんのおいがチョッピリ感じられる。五人の委員のなかでは大島さんに次ぐ年長者だが、その行動力と気概は青年のように若々しく、自分でも「四十七年前、葺合区新川地区ではじめて貧民救済を叫んでから、私の信念は少しも変わっていない。私はいつも同じ目標に向かって同じ道を歩いてきた」という。“日本のガンジー”といわれるが、初印象は“恐ろしく活動的な仙人”だ。
- ☆ 教育委員就任の第一声は「私は神戸の貧乏人のためにやってきた」「食いはぐれのない教育、失業の心配がない完全雇用の教育」これが賀川さんの口癖。児童には“生活の方法”を青少年には“手工”と“技術”を教えるという。職業教育の普及という点では、工場内に養成工学校を運営している手塚委員と大いに意気投合していた。この二人の新委員で神戸の教育は大きく転換しそうだ。
- ☆ 東京に住み、生活の大半を“本書き”（創作のこと）と数多くの役職、名誉職に追い回されており、日程は半年先までギッシリつまっているという。多忙なことで有名な賀川さんを引っ張ったのは原口市長のクリーンヒット。
 - ◆ 神戸出身、明治四十年明治学院神学予科修了、大正五年米国プリンストン大学神学科卒、カナダ・パインヒル大学神学博士、米国クユウカ大学文学博士、現在社会党顧問、日本生活協同組合連合会長「死線を越えて」「一粒の麦」などの著書がある。六十八歳。